

豊田市長 太田 稔彦 様

# 美里地域会議 提言書



## 美里地域会議委員

会 長	岡田 宏之		
副会長	松村 洋		
委 員	青木 徹	大坪 道助	岡本 渉
	笠松 保希	小林 忠雄	柴田 勝正
	代田 正晴	千葉 善郎	豊田 博久
	中島 康隆	成田 恵美子	細川 章一
	望月 英光	山田 正見	山本 由和

令和5年7月24日



# 提 言

令和4年度に美里地区内の自治区及び各種団体の役員に対して実施した「美里地区のまちづくりに関するアンケート」を参考に、当地域会議において検討した結果、「地域住民の交流」に取り組む必要があると合意しました。つきましては、美里地区に必要な取組について、次のとおり提言します。

## 1 自治区行事の充実に向けた支援

コロナ禍で縮小していた自治区行事について、地域の伝統を守りつつ、より魅力的な行事として再開するために、各自治区の行事の取組状況や運用方法に関する情報を取りまとめたり、イベント運営専門業者の情報を自治区へ提供したりするなどの支援が必要であると考えます。

## 2 交流の場として公園を有効活用するための支援

美里地区内には多数の公園やちびっこ広場があり、身近な交流の場としての活用が期待できます。当地区では、地区区長会に市職員を招き、設備の点検方法や公園のルールについて講習を受け、公園の日常管理の充実に向けた取組を開始しています。今後は、地域を挙げて、公園内の危険個所の改善や使用ルールの見直しも予定しています。

現行の市の基準では遊具等の設置に制限がありますが、美里地区内に新たな基準を用いたモデル公園を設定するなど、利用者の声を公園づくりに反映できる機会が必要であると考えます。

## 3 地域内の交流施設の情報発信

住民同士の日常的な交流を増やすため、公園、区民会館、交流館、コミュニティセンター等、地域の住民が使用可能な施設の情報について、従来の紙媒体に加えて、ICTを活用した情報発信が必要であると考えます。

## **【参考】 これまでに検討した本提言における美里地区の課題**

### **1 コロナ禍の影響による行事の減少**

美里地区のまちづくりに関するアンケートにおいて、「コロナの影響で行事が中止となり、地域との交流の機会が減少した」という回答があった。令和4年度に美里地区内で秋祭りの開催を予定していた12自治区の内、計画どおり開催した自治区は3自治区で、4自治区が中止し、5自治区が規模を縮小した。その影響で、行事を運営するノウハウをもつ人が自治区役員や地区にいなくなり、行事の再開に向けたハードルが高くなることが懸念される。

### **2 気軽に交流できる場所の不足**

日常生活の中で、住民が気軽に集える場所が不足している。特に、子どもや高齢者が気軽に交流できる場所が少ない。公園を例にとると、小学生の部活動がなくなったため、放課後に公園で遊ぶ子どもが増えたが、ボール遊びができないルールがあったり、ステンレス製の遊具が夏場に高温になったりするなど、気軽に使いにくい状況が見受けられる。また、現行の市の基準では、サッカーゴールや日よけのあるベンチ、健康遊具などを新たに設置してもらうことはできない。今後、日常的に住民が集まる場所として公園を有効活用するためには、ルールを再検討したり、設備面で安全に配慮したりする必要がある。

### **3 自治区活動に参加する人の固定化**

環境美化活動や交通安全立哨、防災訓練などの自治区活動へ参加する住民が固定化されている。このままでは、近隣住民との付き合いが一層希薄になり、発災時の助け合いや防犯への取組が不十分になる可能性がある。自治区未加入世帯に対して、広報とよた配布時にチラシを配布して加入を勧めたり、自治区活動に参加していない世帯に対して地道に声掛けを行ったりしているものの、状況の改善には至っておらず、幅広い住民に自治区活動へ参加してもらう有効な方策が見つかっていない。